

「公民館の運営と配置新方針案」に批判的な意見相次ぐ

市内各区地域協議会ではいま、教育委員会による「公民館の運営と配置新方針案」の説明と質疑が連続的に行われていきます。議会での議論を深めるために、旧頸北の地域協議会には橋爪、上野両議員が出かけ、委員と市教委のやりとりを傍聴しています。

どこでも、これまでよりも活動水準が低下することになるのではないかとという心配があつて、議論は活発です。

柿崎区地域協議会では、「中山間地の活動が停滞するのではないか」「地区館・分館が手薄になるのでは」「社会教育はみんなが公平に受ける権利があるはず」などの意見が相次ぎました。

吉川区地域協議会では、「高田区の地域協議会の（仮称）厚生産業会館の場合のように、今回もごり押しされるのではないか」「団塊世代のものにとっては学校が終わると公民館だった。公民館分館はそれぞれの地域で考えられる方向に進んできた経過がある。自主性の尊重を」「社会教育の充実といいながら、分館の統廃合が先にありきのような気がする」といった声が出ました。

頸城区地域協議会では、「公民館のあるべき姿については非常にいいこと書いてあるが、公民館統廃合して（一部の分館を）なくし



5月1日は第84回メーデーでした。上越市では雁木通りプラザにおいて上越地区集会が開かれ、その後、市内の目抜き通りでデモ行進が行われました。参加者は約80人。日本共産党市議団からは平良木議員が代表して参加し挨拶、「アベノミクスの危険な暴走を許さず、消費税増税を中止し、国民の仕事と所得を増やす、本格的な景気回復を」「政治を変え、人間らしく働く社会をつくるためにも、参院選挙で日本共産党躍進をさせてください」と訴えました。また、デモ行進では横断幕を持ち歩きました。

決意表明では、全医労、国交労組、農協労組、にいがた青年ユニオンなど7団体が次々と立ち、「生活保護切り下げが最低賃金引き上げ等に影響を及ぼしている」「安倍内閣がアベノミクスで経済活性化を図るとしているが、組合員の中で給料が上がった人は誰ひとりいない」などと訴えました。デモ行進はあいにくの雨でしたが、「正社員を増やせ」「TPP参加反対」「消費税増税反対」などのシュプレヒコールをあげ、市民にアピールしました。

橋爪、上野両議員は公務のため、参加しませんでした。

日本共産党上越市議員団ニュース
 No.363 2013年5月12日

連絡先
 橋爪 法一 090-5392-1961 (吉川区代石)
 上野 公悦 090-7260-9407 (頸城区中柳町)
 平良木哲也 090-1808-6919 (上中田)



ましようというのは間違っている」「基本方針と公民館の再配置はロジック的に結びつかない。まず分館をなくせというのは極めて乱暴な意見だ」「いまの分館は地域に密着して活動している。分館なくなつたら、地域の人にとって非常に遠いものになる。分館を減らせば、さらに参加者は減り、目的とは逆方向に行く。地元の人にとっては迷惑です」と批判的な意見が多く出ました。

いずれの地域協議会も今後、この問題を継続して議論していくことにしています。行政への不信感が強く、これからの議論は困難を極めるかも知れません。どうあれ、時間をかけて住民本位の方針をまとめてほしいものです。写真は、頸城区地域協議会の様子です。



被災者支援募金の訴えに八千円
 橋爪議員を囲んで山菜料理を楽しむ会が5日、橋爪牛舎脇広場で開催されました。第一部では、同議員が市議会報告をしました。

同議員は、最近の市政の特徴や問題点について、総合事務所産業建設グループの集約などを例に説明しました。また、中山間地対策など市政の評価すべき点についても紹介しました。

写真は、女性後援会のみなさんが、東北大地震被災地支援のカンパを訴えているところです。カンパは約8000円寄せられました。